

Contents

謹賀新年	1
ゲイ・ゲームズ in シドニー記	3
第16回日本エイズ学会学術集会報告	5
スタッフ合同研修終了!	6
活動報告	7
VOICE02	10
お知らせと報告	11

謹賀新年 2003年ふれいす東京は活動10年目をむかえます

ふれいす東京代表 池上千寿子

ふれいす東京は1994年の4月に高田馬場で産声をあげました。当時のスタッフは20余名。1LDKの部屋に机と電話でスタート。10年一昔とはいいませんが高田馬場界限でより便利より快適をめざした転居2回、スタッフは200名にならんとし、事務所はPCが所狭しと並び、メールにホームページにと様変わり、ふれいす東京のケアサービスを利用される陽性者は年間実人数で300人をこえ、PGM(自助活動)が花開き、エイズ電話相談は地道に実績を重ね、老若男女相集い、研究と現場、民間と行政、予防とケア、理論とパフォーマンス(エビデンスとビジュアル展開ともいう)のブリッジを斬新にかけようではないか、と多様なタレントが結集しております。そして昨年、10年目にむかっただけの記念とも言えるようなひとつの成果が実を結びました。それは

CONDOMing 宣言です。

毎年エイズデー(12月1日)がやってきます。それに先立ち「東京都エイズ予防月間」(11/16-12/15)、「性の健康週間」(11/23-12/1)があります。この頃各地でさまざまなイベントが行われますが、「エイズでは人が集まらない」という声をそこかしこで聞くようになってすでに数年、エイズデーの頃だけメディアにとりあげられるのは「いかなものか」と言っていたのはその又前の話で、いまやエイズ国際会議だって無視されて報道されないという冷凍庫現象。

そんな冷風は感染にはまたとない温風なわけで、ここ20年間で国内のコンドームの販売数はなんと30%落ち込んだのでした(コンドームの国内出荷数は80年を100とすると2000年は73)。期待の新製品女性用コンドームも大苦戦をしいられています。んなバカな!!

昨今「若者のセックスが活発化」「若者に性感染が急増」「10代の人口妊娠中絶が4万件をこえた」とデータばかりが「脅し」のように出てきましたが、あたりまえじゃありませんか。具体的で適切な予防と避妊の情報をわかりやすく提供せずに、愛と絆を頼りにすればウイルスが遠慮してくれるような情報が蔓延しているのですから。中学生向けに配付された避妊や予防の具体的方法を提供したパンフレットが国会で問題としてとりあげられるなんて、しかも大臣がきちんと対応できないなんて... 愛と信頼でウイルスに対抗しようとモラル欠如の永田町は考えているのでしょうか。

「セックスするな」という教育は逆にセックス開始年齢を早める、具体的な予防行動を早くから教えた方が性行動は慎重になる、とWHO、UNAIDSが発表しているのに、データも確かめずに文句つける人に税金で秘書まで雇っているのかと思うと嫌になってしまった。とまあ、昨夏とくに悲憤慷慨していたのですが、すこし風向きが変わりました。第1に、厚生労働省が夏にW杯日本代表GK 檜崎さんを使った街頭映像キャンペーンで「コンドーム」と文字だけだけど大寫し。全国2500の映画館でコンドーム使用奨励の30秒

CMを放映。「性の健康週間」では少女コミック誌に広告1頁「愛していてもナマは危険です」「カレシとでもゴムを着けましょう」「エッチは安全に気持ちよくが第1です」とのコピー登場。「ゴムつけないとまじでやばいよ」街頭映像15秒が11月最後の1週間渋谷、池袋、原宿で放映されました。

巷にはやっとならぬ風がただよいはじめたかも。おい遅すぎるよ。

そしてお待ちかねの真打ちは、平成14年度東京都エイズ予防月間ポスター、「CONDOMing宣言」!!

そうです。原画を作って入札を勝ち取ったのはぶれいす東京なのでした。都内の学校や公共施設、都バス、都営地下鉄に「CONDOMing宣言」がはためきました。東京の方はみただしょう? みてない人のためにここで紹介しますね。この入札にNGOが参加したのは「前例のないはじめて」。いよいよ時節到来というべきか。万人向けの曖昧さ、八方美人の抽象コピーはもうたくさんですよ。

都のポスター図案コンペの説明会は7月下旬でした。急きょ図案コンペ用プロジェクトXを結成し、夏休み返上で議論を重ねて突貫作業、わずか三週間で図案を提出したのでした。CONDOMingはぶれいす東京が1996年に作った新語です。日本語、英語、中国語、ハングル、タガログの五か国語で作成しアジア太平洋エイズ会議(1997)で配付したオリジナル「CONDOMing Book」に始まって、すでに30万部配付されている「SexualHealth Book Let's CONDOMing」まで、CONDOMingを流行語にしたいという情熱でやってきました。今回のプロジェクトXのディレクターは

鈴木たちは、うなった。(田口トモロヲの声で)



ずらっと並んだケータイ画面のメッセージ。

「CONDOMing Book」でもプロジェクトを結成してくれた鈴木隆治さん。コーディネーターは生島嗣事務局長、そして強力な面々が揃いました。デザイナー新藤岳史さん、イラストレーターモリケイさん、コピーライター大庭陽子さん、それにぶ PEPの若いスタッフでした。ケータイの画面、若い人にほんとうに好評でした。

10年一昔というけれどこの10年、ずっと一緒に活動を続けてくれているみなさん、支えてくださっているみなさん、ありがとうございます。ぶれいす東京には若くてすごいエネルギーもどどんどん入ってきています。ぶ PEP集団です(年齢の上限25歳、ただしノーチェック?)。おかげでエステは不要といたいくらい刺激的。CONDOMing宣言の実践を今年はおおいに展開しましょう。合い言葉「コンドーミング」、それが流行語大賞に!なんて初夢をみました。

10周年をむかえて初心忘れずポジティブに。今年もどうぞよろしく願いいたします。

ゲイ・ゲームズ in シドニー記

東島由幸

“ゲイ・ゲームズとは？”

ゲイ・ゲームズ。4年に一度のゲイのオリンピックが、2002年に開催されました。といっても、ゲイでなければ参加資格がないわけではありません。18歳以上であれば誰でも大丈夫。誰も排除することなくやっていく(Inclusion)という大会の一貫したテーマがあり、個人の参加(Participation)と自己ベストの達成(Personal Best)に何より重きを置いているからなのです。

ゲイ・ゲームズは、デカスロン(10種競技:100メートルなどのトラック競技と走り高跳び、幅跳びなどのフィールド競技の総合得点を競う)のオリンピック米代表だったトム・ワデル博士が、1982年に始めたスポーツと文化の祭典です。ワデル博士は、87年にエイズで亡くなりましたが、その意志は、100%ボランティアベースで運営されるゲイ・ゲームズ連盟によって現在まで引き継がれてきました。6回目となる2002年は、オーストラリアのシドニーが舞台。ずっと北米とヨーロッパ開催だったゲイ・ゲームズ初のアジア・太平洋地域進出で、記念すべき大会となりました。



ワデル博士

“シドニー大会のあれこれ”

シドニー大会はオリンピックで使われた競技場などを中心に、11月の初旬に8日間の日程で開催されました。参加者は、世界70余カ国から総勢1万3千人あまり。トランスジェンダー(およそ30人)や、サポートの必要がある障害者(220人)もいます。

オリンピックを上回る参加者を誇る大きな大会ですから、ボランティアとスタッフの人数も半端じゃありません。その数、およそ3千人。年代も幅広く、近所のおじちゃん、おばちゃん風な人がたくさんいます。セクシャリティもまちまちな人々が一緒に働いている姿は、規模は大きくなっても、この大会が目指すところをしっかりと伝えていました。

競技の幅は広く、スポーツはもちろん、チェスやブリッジ、合唱など全部で31種目。変り種としては、オリンピックでは非公認の男子シンクロナイズドスイミングやタッチラグビー、ポーリングやポディビルディング、セイリング等がありました。

一部の競技を除き、観戦は無料なので、男子シンクロなど興味の赴くまま、会場を転々とするのも楽しみ方の1つです。

参加者の数ですが、国別に見ると、やはりアメリカ、オランダ、オーストラリアが圧倒的。一方、お隣韓国のように参加登録が1人だけ、または0という国も多く、特にアジア、中東、アフリカからの参加者はまだまだ少ないのが現状で



車椅子で



100m 走



男子シンクロ

す。これまでは、圧倒的に白人ゲイ男性の競技者・観客が多かったゲイ・ゲームズですが、組織委員会も、非白人の参加者増への取り組みを始めたようで、アジア・太平洋地域の参加者に向けたイベントを行ったり、奨学金のようなものをだしたりしています。でも、まだ取り組みは始まったばかり。僕が参加したマラソンには、およそ3千人が参加していたはずですが、日本人はおろかアジア人もほとんど見あたりませんでした。居心地の悪い思いをすることはありませんでしたが(「Go JAPAN!」なんて具合にみんな応援してくれました)、せっかくの機会、ちょっと勿体無い気がします。(今年日本からの参加者は全部で34人。2006年のモンテリオール大会は、夏休みの時期と重なりますから、興味がある方はぜひ。)

パリ島の爆破事件直後で、参加を取りやめた人も多かったようですが、それでも10万とも20万ともいわれる観客があいまって、大会期間中のシドニーは、ゲイ・ゲームズ一色でした。ゲイコミュニティがあるクリストファー通りはもちろんのこと、市役所や警察署がある町の中心部でも、ゲイ・ゲームズの旗が翻り、バスを首にぶら下げた人が通りを歩いているのです。客をあてこんでか、レインボウフラッグ(ゲームーブメントの象徴、虹をあしらった旗)を掲げてゲイフレンドリーをアピールする店もあちこちにあり、一部試算では経済効果70億円なんて数字も出ていました。カントス航空やアメリカン航空、ボーダフォン、トヨタなどの有名企業がスポンサーとしてつくのもうなずけます。



役所前。大会フラッグが並び



上部に「Proud sponsor of the Gay Games」のコピー

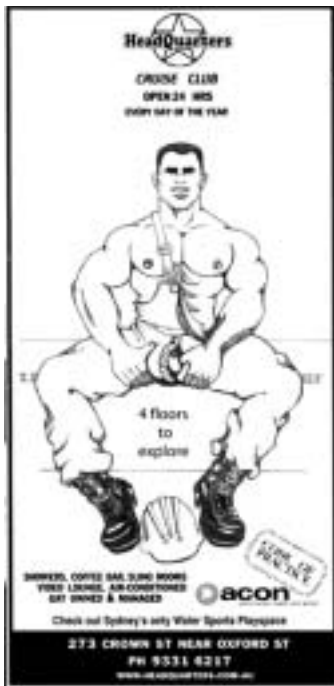
“Sex in the City”

ゲイ・ゲームズのスポンサーに、今年はアンセル(Ansell)というコンドームのメーカーが付き、大会用にデザインされたコンドームが、昼夜を問わずあちこちで配られていました。これがなかなかお洒落。ティッシュをわし掴みするおばちゃん気分で、ごそっと頂戴したくなるデザインです。

ゲイ・ゲームズの期間中は、世界中から何万というゲイがシドニーを訪れます。シドニーのあるニュー・サウス・ウェール



配付のコンドーム



ハッテン場広告。
右下にACONのマル適マーク。

ズ州では、成人同士の合意に基づく売買春は合法ですから、稼ぎ時のこの時期には、全豪各地からセックスワーカーが集まってきます。コミュニティの新聞には、写真付きの広告がたくさん載っていました。また、日本でいうハッテン場の施設(ゲイ・パイセクシャル男性に性的な出会いの場を提供



首にもゴム

する商業施設)をはじめ、セックス産業全体も大にぎわい。大会期間中、多くは24時間ノンストップ営業です。

毎年行われるマルディグラ(豪のゲイパレード)で対応にされているのでしょうか、大会の参加者向けハンドブックには、しっかり「Sex in the City」と題したページがありました(女性の



梅毒予防キャンペーン



いちご味の潤滑ゼリーの広告。コピーは「Eat more fruit.」

の本音を赤裸々に描いた米HBOのドラマ「Sex and the City」のもじり)。わずか1ページのシンプルなものですが、セーファーへのメッセージが込められている、それはそれはセンスのよい仕上がりです。

このページを担当したのは、ニュー・サウス・ウェールズ州エイズカウンシル(ACON)。ここが定めた基準を満たしている施設(サウナ・バスハウス・セックスクラブ等)には、「ACON Code of Practice」というマル適マークが交付される

そう、確かに広告をみているとマークが目につきます。その基準というのは、セーファーセックスに関連した内容で、コンドームや潤滑剤の無料配布をはじめ、照明の明るさからスタッフのトレーニング度まで結構厳しい内容ですが、シドニーにある施設のほとんどは、基準を満たしているようです。となると、あまのじゃく君はマークがついてない所を探したくなるものですが、確かに少なかったです。

それでも、ここ数年、シドニーでは特に梅毒や淋病、クラミジア等のSTDが急速に広がっているようです。人が集まるゲイ・ゲームズやマルディグラ等のピック

イベントが集中するために、シドニー市やACONのような団体が負う、HIVを始めSTDの対策に要する人的・金銭的負担は相当なものだと思います。大人の責任としては、楽しませてもらった分、対策にかかる費用は相応に負担してシドニーを後にしたいもの。でも、募金箱はあちこちに置いてあるものの、みんなの財布の紐はそう簡単にゆるみません。

お祭りの楽しい雰囲気の中で、なかなか言い出しにくいことを見事に言ってくれたのが、閉会式の司会者でした。約2万人を集めた閉会式の途中、彼は楽しい話を織り交ぜながら、オネエな調子で「ここにいる皆さんが、1人1ドル(約70円)出すことで、一気に2万ドル(140万円)集まります。それは大きな力となるのです。だから、つべこべ言わず出しなさい!」と語り、みんなの笑いを誘っていました。笑って偉大です。司会者の言葉をきっかけに、みんな気持ちよく募金バケツにお金を入れ始めました。そう、それとバケツを持って回るボランティアも役者揃い。写真のきれいなお姉さんから、マッチョなイケメンお兄さんまで、募金もエンターテインメントの時代です。



募金集めのおネエさん

“ゲイ・ゲームズの力”

閉会式翌日、きれいに片付けられた会場を散歩したりして過ごしていたら、アツという間に飛行機の時間が迫ってきました。有名なオペラハウスの夜景が見えるサーキュラー・キー駅で、空港へ向かう電車を待っていると、「どこから来たの?」と話しかけてきた女性が1人。ゲイ・ゲームズのために東京から来たんですと正直に話したら、話が弾み、色々なことを聞かせてくれました。

ゲイ・ゲームズも開かれ、マルディグラもあるシドニーは、一見ゲイにとって理想的な環境に思えるけれども、それは都市部のゲッターに限ったこと。少し郊外に行けば、ゲイに限らず、アボリジニーであることなど、1つでもマイノリティ要素を持つ人にとっては、ものすごく生きにくい国であること。最近は保守化傾向に拍車がかかり、イギリス支配の根強い影響もあって、白人至上の考え方がぶり返してきていること、等々。多文化主義を謳う豪政府ですが、簡単に素晴らしい、うらやましい等とは言えない事情が、やっぱりあるんですね。

彼女の話にうなずきながらも、「でも、声を上げて抗議の意志を示す人も必ず出てくるから、お互いに綱引きができていて、そう簡単には押し切られない。そこは大きい」と僕が混ぜ返すと、彼女は「だからこそ、ゲイ・ゲームズのようなセレブレーション(お祝い事、お祭り)が、みんなのエンパワメントのために重要よね」と、諸手をあげて賛同するしかない素晴らしいコメント。3日間だけの滞在でしたが、ゲイ・ゲームズに参加して、その言葉が核心についていることがわかりました。自己ベストの更新に励む人々の姿は、僕に大きな励ましをくれたのです。



盛りあがる観客席

第16回日本エイズ学会学術集会報告

平成14年11月27日～29日に、名古屋で第16回日本エイズ学会学術集会・総会が開催され、ぶれいす東京からも以下の演題で発表がありました。

11/28(木)

演題名:「人気テレビドラマにおけるジェンダーとセクシュアリティに関する分析」 東優子 (ノートルダム清心女子大学人間生活学部)

演題名:「パートナーとの関係性の認知が短大・大学生女子のコンドーム使用行動に与える影響」 徐 淑子 (新潟県立看護大学)

11/29(金)

社会的支援(2) 座長: 生島嗣

演題名:「HIV陽性者に対するパティ派遣サービスの利用に関する考察」 牧原信也 (ぶれいす東京)

演題名:「新HIV陽性者対象サポートグループ PEER Group Meetingの意義と今後の課題(第2報)」 福原寿弥 (ぶれいす東京)

11/30(土)

演題名:「ゲイ・バイセクシャルのコンドームに関する調査」 生島嗣(ぶれいす東京)

演題名:「男性同性間性行為におけるコンドームの使用/不使用の要因に関する質的調査結果とヘテロセクシャルの若年女子/男子調査との比較研究」 砂川秀樹 (ぶれいす東京/エイズ予防財団)

シンポジウム16 女性HIV感染者のマネジメント

演題名:「女性陽性者のサポート」 野坂祐子 (ぶれいす東京)

公開国際シンポジウム「HIV/AIDS 必要としている人々にケアは届いているか」

・地域におけるHIV/AIDSケアの取り組み 池上千寿子(ぶれいす東京)

日本エイズ学会に参加して

兵藤智佳

第16回日本エイズ学会は、全日程3日間でしたが、私は前半の2日間だけの参加でした。また、2日目については、社会科学系の発表がほとんどなく、限られた範囲での報告になりますが、私個人の印象を中心に学会報告を書きます。

1日目は国際的なデータを扱った発表があり、その後、日本国内での性行動とHIV感染に関する疫学、公衆衛生的なアプローチでの報告、2日目は主に、「支援・ケア」を中心としたものという構成でした。まず、全般的には、「数値の実証データを積み重ねた研究や活動の分析」が増えているという印象を持ちました。特に、京都大学のグループが地方までを含めた若者の性行動のデータを蓄積し、介入している動きが印象的でした。こうした研究を含めての「数値としての実証データの蓄積」は、ある一面、「社会科学的研究」としての「体裁」がとれている発表が増えたという見方ができます。しかし、一方で、個人の「経験の意味」をいかにして理解し、実際の活動に結び付けていくのかといった問題意識に関しては、限界があるのかもしれないという思いも持ちました。

また、今回、印象的だったのは、「介入プロジェクトや教育」評価の発表で、学校教育や、感染者自身が講師となった取り組みなどが見られましたが、それぞれ、あまり「効果」が見られないという結果が報告されていた点です。これに関しては、調査の枠組み、評価すべき指標の設定、介入プログラムの有効性等がさらに議論される必要があると思いますが、今後の動きとして注目できるかと思えます。

その他、支援活動の報告では、「感染者の性機能障害」や「治療の途中中断の防止」といった支援の中身を細分化した形の発表が印象に残っています。「トータルな支援」という視点はもちろん大切ですが、ぶれいす

などで実際に活動を行う人にとって、「具体的に、では、どうするのか」を考えていくヒントとして、こうした研究の積み重ねは、有効ではないかと感じました。学会に参加するにあたり、研究が研究としてではなく、活動にどう結びつくのかという問題意識を持ちつづけることが大切なのだと思います。

第16回日本エイズ学会学術集会に参加して 福原寿弥

平成14年11月27日から29日にかけて、第16回日本エイズ学会学術集会・総会が名古屋国際会議場において開催されました。

今までにも、他に幾つかの学会に参加してきた私ですが、どの学会においても、その年の学術集会についてまず始めに気になるのが「何処で開かれるのか?」ということ。それによって参加しようかどうかどうかが決まったりすることもあるわけなのですが、今回のエイズ学会は「名古屋」ということで、まず何が思い浮かんだかというと、私の場合「味噌カツ丼」でした。以前別の学会で名古屋を訪れ、初めて食べた時の記憶が至福の感覚を呼び覚まし、唾液腺を刺激したのです。そのために...というわけでもないのですが、今回学術集会に参加してきましたので、簡単にその報告をさせていただきます。

まず初日。前日まで自分の発表の準備をしていたために(遅い!)途中からの参加となりましたが、総会後にあった会長のオーバービューが印象的でした。人のレトロウイルスは存在しないといわれていた時代から、HTLV-1の発見、そしてHIVの登場へとつながる歴史が語られ、ウイルスの自己免疫疾患や神経変性疾患への関連についても示唆されました。HIVの発見は人類の「終わりの始まり」かもしれないという言葉と、そうであってはならないという研究者の決意が、深く心に響きました。

また今回、学会参加の第一目標を医学情報の更新・収集という点においていたのですが、2日目の症例報告や日和見感染、合併症、肝炎などのセッションについては、HAART以降の変化や傾向について多数報告があり、臨床現場の雰囲気がヒシヒシと、しみるくらいに伝わって来るものでした。

さらに最終日には、HIV感染症治療研究会によるガイドラインに関連したセミナーが開かれました。恒例とも言えるこのセミナーは人気が高く、大きな会場も満員に近い状態で、前の方に座っていたら、周りに著名な先生がたくさんいらっしゃって、妙~に緊張してしまいました。パネル形式で薬物血中濃度やC型肝炎合併例等の話題が取り上げられ、最近の知見が得られるように工夫されていました。なお、ガイドラインは治療開始の基準など一部改定されていますので、詳しくは「治療の手引き」第6版にてご確認ください。

学術集会最後には、ぶれいす東京代表の池上も係わる厚労省科学研究班による公開国際シンポジウムが開かれました。「必要としている人々にケアは届いているか」と題して、日本そして世界(オランダ、ブラジル、カナダ)における予防や医療、ケアの現状について報告されました。HIV/AIDSが社会全体の課題(貧困、セクシュアリティ、ジェンダー、人権等...)と強く関連していること、国(民)としてどう対処していくべきかが問われていることを再認識させられました。そのことは、まさにこの学会が医師やウイルス学者だけではなく、行政担当者や我々NGOなど、HIVに係わる様々な人達で作られているということに象徴されていると思われました。

多彩なプログラムも盛況のうちに幕となり、車中の人となりましたが、これからしばらく世界エイズデー関連の行事が続くなぁと思いつつ、日頃からもっと勉強しておこうと、ちょっとだけ考えさせられました。

スタッフ合同研修終了!



今回は30人を超える参加者が

前号のNLでも募集していた、新規ボランティアスタッフの合同研修を9月29日～10月13日にかけて行い、無事終了しました。今回は、各部門にこだわらず、ぶれいすの活動に興味のある方、参加したい方を募集して、ごそつとオリエンテーション 研修を受講してもらいました。これまでは比較的オリエンテーション/研修は個人的に行っていたのですが、それだけではなかなか見えにくい色々なぶれいすの活動を知ってもらうことと、何よりスタッフが楽しみながら研修し交流しよう!ということがあり、今回は30人弱の大所帯での研修とあいなりました。

毎週日曜日の午前10時から午後4時30分まで、講義と、ワークショップを織り交ぜた1日5コマと学校並のスケジュールを強行しましたが、みなさんががんばって来てくれていました。

ちなみに、今回の研修の日程は別表のように行いました。色々慣れないことが多く不手際が多かったと思いますが、ご協力をいただいた講師の皆様、参加者の皆様、どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

これからは、それぞれの部門での研修・活動になると思いますが、皆様の今後の活躍を期待しています。末永く、よろしく願いいたします。

ちなみに、参加者のアンケートから研修の感想についてこんな声をいただきました。

「人を大切にするという雰囲気がとてもあったと思います。私らしくいることができました。」

「自分を映す鏡ですねホント...ヘビーでした。」

「疲れました!」

「時間的にはハードだったが、自分に対する気づきもあってとても楽しかった。」

	2002.9.29 エイズ知ろう館	2002.10.6 生活産業プラザ	2002.10.13 エイズ知ろう館
10:15 } 11:15	社会的な背景 (池上)	セクシュアリティ と多様性について (砂川)	プライバシーとは (池上/生島)
11:15 } 12:15	エゴグラム (野坂)	Safer Sex Work リスクアセスメント (砂川/白坂)	HIV感染後の生活 と社会サービス (牧原/山里)
	昼食	昼食	昼食
13:15 } 14:15	医学的基礎知識(1) HIVの基礎知識 (福原)	コンドームの使用法 男性用、女性用 (白坂/福原/生島)	感染者の手記を 読む (生島)
14:15 } 15:15	医学的基礎知識(3) HIVとその検査法 (沢井)	相手のある保健 行動 コンドーム 使用と使用依頼 (池上)	振り返りの時 (池上/生島)
15:15 } 16:15	HIV陽性と告知と 予防 (生島)	医学的基礎知識(2) 性感染症の基礎知識 (福原)	

「大変居心地のよい場所だと思いました。これから自分のできる範囲ですが、頑張っていきたいと思います。」

「なんでも言えてそれを受け止めて聞いてくれる皆さんがすばらしいと思いました。前から知り合いのような感じがしました。この雰囲気を忘れないように、活かせるようになりたいです。」

「すごく居心地がよくて、癒され・元気づけられた研修でした。今のやる気をkeepできるように意識してゆきたいと思います。」



「相手のある保健行動」の講義中の池上代表

活動報告

各部門より

ホットライン

7月

- 12日(金) 東京都電話相談連絡会(出席3名)
- 15日(月) 東京エイズ相談連絡会
「福祉制度について」(参加3名)
- 17日(水) 第2回東京都立衛生研究所見学会(参加6名)
- 21日(日) スタッフミーティング(出席12名)

8月

- 9日(金) 東京都電話相談連絡会(出席3名)
- 18日(日) 世話人会ミーティング(出席6名)
スタッフミーティング(出席9名)

9月

- 13日(金) 東京都電話相談連絡会(出席3名)
- 14日(土) ぶれいす東京スタッフ合同研修オリエンテーション
- 15日(日) 世話人会ミーティング(出席7名)
スタッフミーティング(出席11名)
- 17日(火) 東京エイズ相談連絡会
「カミングアウト~本人編」(参加6名)
- 29日(日) スタッフ合同研修・1日目

10月

- 6日(日) スタッフ合同研修・2日目
- 11日(金) 東京都電話相談連絡会(出席2名)
- 13日(日) スタッフ合同研修・3日目
- 20日(日) HL部門相談員専門研修・1日目
スタッフミーティング(出席9名)
- 27日(日) HL部門相談員専門研修・2日目
食事会

相談概要

ぶれいす東京エイズ電話相談

7月

4日間、16時間、相談員数のべ12人
相談件数 28件(男性23件、女性5件、陽性者1件)
1日あたりの相談件数 約7.0件

8月

4日間、16時間、相談員数のべ12人
相談件数 36件(男性30件、女性6件、陽性者0件)
1日あたりの相談件数 約9.0件

9月

5日間、80時間、相談員数のべ15人
相談件数 33件(男性26件、女性7件、陽性者1件)
1日あたりの相談件数 約6.6件

10月

4日間、16時間、相談員数のべ12人

相談件数 27件(男性20件、女性7件、陽性者1件)
1日あたりの相談件数 約6.8件

東京都夜間・休日電話相談(委託)

前号データ抜けのあった5、6月分を再録

5月

13日間、39時間、相談員数のべ33人
相談件数 219件(男性194件、女性25件、陽性者1件)
1日あたりの相談件数 約16.8件

6月

14日間、42時間、相談員数のべ35人
相談件数 206件(男性172件、女性34件、陽性者2件)
1日あたりの相談件数 約14.7件

7月

12日間、36時間、相談員数のべ34人
相談件数 224件(男性194件、女性30件、陽性者0件)
1日あたりの相談件数 約18.7件

8月

14日間、42時間、相談員数のべ37人
相談件数 220件(男性189件、女性31件、陽性者1件)
1日あたりの相談件数 約15.7件

9月

13日間、39時間、相談員数のべ33人
相談件数 195件(男性164件、女性31件、陽性者2件)
1日あたりの相談件数 約15.0件

10月

12日間、36時間、相談員数のべ29人
相談件数 195件(男性177件、女性18件、陽性者2件)
1日あたりの相談件数 約16.3件

新人研修が進んでいます。今回は他部門との合同講義を経ての専門研修という初めての試み。さて、どんな効果が得られるでしょうか。集まってきた研修生にも、現役スタッフにも、そしてもちろん相談利用者の方のために、充実させていきたいと思います。

ぶ PEP

ピアプログラム実施状況

	派遣先	人数	ぶ	PEPメンバー
10月29日	栃木県佐野高校	700名		3名
11月06日	東京学館浦安高校	30名		3名
11月14日	木更津保健所管内小中学校養護教諭	92名		3名
11月22日	宮崎県延岡工業高校	200名		2名
12月12日	東京都シンポジウム			7名

アウトリーチ 他

イベント名	ぶ	PEPメンバー
11月2・3日 聖路加看護大学の文化祭協力	3名	
11月23日 WAKAI イベント協力	4名	
12月07日 街頭キャンペーン@立川	4名	
街頭キャンペーン@吉祥寺	5名	

ぶ PEP ミーティング実施状況

10月17日	ミーティング
10月25日	ミーティング
11月07日	定期ミーティング&ビデオ撮影
11月19日	アウトリーチミーティング
11月22日	ミーティング
11月26日	ミーティング&都民ホール下見
12月02日	吉祥寺アウトリーチ現場下見
12月03日	アウトリーチミーティング
12月05日	定期ミーティング
12月07日	シンポジウムリハーサル
12月23日	ぶ PEP 年末パーティー

バディ

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第2木曜 11:00 ~ 第4木曜 18:30 ~)

7/11	4人	7/25	9人
8/8	3人	8/22	5人
9/12	3人	9/26	6人
10/10	6人	10/24	6人

利用実績 (2002/7 ~ 2002/10)

6カ所の病院に通院中、もしくは入院中の16名の方に17名のバディスタッフを派遣。

訪問先 (2002/11月末現在)

在宅訪問:	8
病室訪問:	3
在宅への電話のみ:	1

新規派遣

通院時の付き添い・入院中の買い物・洗濯等・入院中の本人と家族の支援等: 3件

派遣修了

入院中の買い物・洗濯等: 1件

(入院中のみの短期派遣。退院による終了)

入院中の洗濯: 2件

(ニーズの消失)

バディ担当中のスタッフ構成 (11月末現在)

女性: 10

男性: 4

バディの現場から

8月/11月のワークショップで6人/9人の方が研修を終了し

新たにバディとして加わりました。このうち11月の終了したバディは、9月~10月にかけて行われた合同研修の修了者です。また最近になり、依頼が増えつつあります。増員されたスタッフにて活動の充実を図りたいと思います。12月よりミーティングが第1/3の木曜日に変更になりました。(1月については、第2/4木曜日に開催です)



バディ研修のひとつコマ

ネスト

ネスト利用状況

オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)
7月 28日	114名	(5名)
8月 30日	169名	(7名)
9月 25日	182名	(2名)
10月 25日	110名	(8名)

ピア・グループ・ミーティング/ミーティング

- ・新人ミーティング第8期(3名)
7/14 7/28 8/11 8/25(修了)
- ・新人ミーティング第9期(6名)
9/5 9/1 10/3 10/17(修了)
- ・陰性パートナー・ミーティング
7/13 8/10 9/14
- ・ミドル・ミーティング
7/13 8/10 10/12
- ・結婚しているゲイ/バイセクシュアルの会
6/28
- ・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)
8/23
- ・カップル交流会
9/1
- ・ピア・ファシリテーター・ミーティング
8/26
- ・ホームページ運営委員会
7/15 8/21 9/17 10/21

ネスト・プログラム

- 7/12 東京都との直接対話集会:
南新宿検査相談室のあり方(参加者5名)
- 7/27 ネスト庵初夏のお茶席(13名)
- 9/7 レズビアン&ゲイパレード実行委員会との共催企画
全国HIV陽性者交流会(57名)
- 9/21 アロマセラピー講座3(6名)
- 9/28 ネスト庵秋のお茶席(8名)

全国HIV陽性者交流会は大盛況!

今年はパレード実行委員会との共催で、レズビアン&ゲイパレード前日イベント全国HIV陽性者交流会が開催されました。9/7(土)には全国より57名の方が参加し、大盛況でした。交流会の実施に協力

してくださった皆様、大変ありがとうございました。

新企画：カップル交流会

ピア・グループの陰性パートナー・ミーティングで、陽性者と陰性のパートナー2人がいっしょに参加できる場があるといいねということから、このカップル交流会が生まれました。9/1(日)の初回は、5組10名の方とスタッフ1名が参加してランチビュッフェを楽しみながら、お互いの話を聞きあい、交流を深めました。

ネスト学習会「稲田頼太郎博士と話す」

エイズ学会で帰国中の稲田頼太郎先生(NYコロンビア大学附属セントルークス病院)が12/4(火)にお時間をさいてください、ぶれいすにお見えになりました。そこで、ネストにおいてアメリカでの経験など、利用者10名とスタッフ2名でお伺いしました。

初めに先生の方から、耐性ウイルスや日本ではまだ承認されていない抗HIV薬についてなど、現在アメリカで話題となっていることについてお話いただきました。その後は参加者からの質問に答える形で、副作用と薬物血中濃度測定についてや最新のリポジストロフィー情報など、服薬や副作用に関連した質問、治療開始時のCD4値と免疫力回復の関係や、ウイルス量検査へのサブタイプの影響など検査データについての質問、ビタミン剤の併用効果や新薬の開発、治験の方法や現状など、貴重なお話をお聞きすることができました。

先進的なアメリカの情報から、最近先生が関わっていらっしゃるアフリカでの現状についてなど、これからもHIVに関して、いろいろな問題を学べる場を提供していきたいと考えています。

お忙しいなか、お時間をさいてくださった稲田先生、ありがとうございました。また、急なプログラムだったので全員の方に事前にお知らせできなかったことをおわび申し上げます。

Gay friends for AIDS

「東京レズビアン & ゲイパレード 2002」

今年も前日祭(9/7)・当日(9/8)の二日間、ブースを出店しました。今年は、Rainbow RINGのブースと同居しました。啓発パンフレットや Condom 配布のほか、ゲイ・バイセクシュアルを対象としたアンケート調査を行いました。

今年は、オリジナルTシャツを作成し、池上代表も、チズコドラッグや多様なメンバーと沿道を楽しくパレードしました。早々と次回のパレードへ演出ネタを練りあげていました。



パレード

「Voice '02」開催!

HIV啓発イベント、Voice 02が12月14日(土)、四谷区民ホールにて開催されました。観客：302人、出演者・スタッフ：92人、ボランティア：31人が参加するイベントとなりました。

6回目の今回は、「LIVING TOGETHER、LOVING OTHERS」をテーマに、総計100人近い出演者によるパフォーマンスが繰り広げられました。なかには、オリジナル曲を発表したアーティストや、衣

装や演出に力を注いでくださる方もいました。ぶれいす東京卒では、HIVに感染した人とそのパートナー2組が出演するビデオを上映しました。

そしてフィナーレでは、豪華なボーカル陣がケミストリーの曲「君をさがしてた」を、SKIN ECHOのコーラスをバックに、ハモハモで演奏しました。司会は、おなじみ、エスマラルダとベースけ。詳しくは次ページにて

・出演:

てるこ & けんけん / NAOYUKI / GOLDEN ROSE / ab & Hyper Go Mens / The Wind Emsemble / Skin Echo / ベースけ

・主催 ぶれいす東京 Gay Friends for AIDS

・協賛 バディ、G-men、サムソン、薔薇族

・協力 劇団フライングステージ スタジオスタッグ

・後援 エイズ予防財団

Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 稼働日 4日 8件 (平均2.0件)

8月 稼働日 5日 14件 (平均2.8件)

9月 稼働日 4日 11件 (平均2.75件)

10月 稼働日 4日 9件 (平均2.25件)

HIV陽性者への相談サービス

相談実績

	7月	8月	9月	10月
電話による相談	54	35	28	45
面談による相談	28	26	16	15
E-mailによる相談	117	178	106	96
うち新規相談	9	13	8	9

新規相談者の情報入手経路(7~10月集計)

・保健所の医師の紹介	1人
・医療関係者(カウンセラー、ナース、医師)	6人
・役所の障害担当者からの紹介	1人
・陽性者の友人/知人の紹介	5人
・家族の紹介	1人
・インターネット	10人
・パンフレット/ハンドブック	2人
・電話相談からの紹介(予防財団×2)	2人
・電話相談からの紹介(いのちの電話×1)	1人
・他団体からの紹介(アカー×1)	1人
・不明	7人

まとめ

相談者は多様なきっかけで、連絡をしてくる。他のHIV陽性者、パートナーや家族、医療従事者、行政関係者などからの紹介や情報提供がきっかけになっている。活動を継続する中で、社会資源として認知された結果だと言える。

HIV/AIDS 啓発イベント「VOICE 02」
LIVING TOGETHER, LOVING OTHERS

日時:12月14日(土) 18:00 ~ 21:00

場所:四谷区民ホール

料金:1,000円 男性のみ入場可

出演:てるこ & けんけん / NAOYUKI / GOLDEN ROSE /
ab&Hyper Go Mens / The Wind Emsemble / Skin Echo / ベー
すけ

主催 ぶれいす東京 Gay Friends for AIDS

協賛 パディ、G-men、サムソン、薔薇族

協力 劇団フライングステージ スタジオスタッグ

後援 エイズ予防財団

WEB:

<http://ptokyo.gender.ne.jp/voice02/>

ぶれいす東京主催による、ゲイ・バイセクシャル男性を対象にした年末恒例のHIV/AIDS啓発イベントが12月14日(土)に開催された。今回のテーマは「LIVING TOGETHER、LOVING OTHERS」(HIVと共に生きる)。総計100人近い出演者によるパフォーマンスが繰り広げられたほか、HIVに感染した人とそのパートナー2組が出演するビデオを上映した。また、来場者には、他では手に入らないオリジナル・コンドーム携帯ケースや、感染者・パートナー・お母さんによる手記とイメージ写真が掲載されたパンフレットをプレゼントした。

そしてフィナーレでは、豪華なボーカル陣がケミストリーの曲「君をさがしてた」を、SKIN ECHOのコーラスをバックに演奏を行った。

司会は、おなじみ、エスムラルダとベーすけ。



フィナーレ

今年のVOICE02は、「共に生きている」というストレートなテーマにスタッフ一同、真っ正面から取り組みました。すばらしいアーティスト達による楽しいステージ上のパフォーマンスに加えて、次の3つの制作を行いました。



表紙

その1 LIVING TOGETHER

この手記集には、10人のHIV陽性者、4人のパートナー、2人のお母さん、1人の友達のLIVING TOGETHER経験が納められています。また、Q&Aコーナーでは、「感染をどう予防するのか?」、「感染がわかった時には?」という二つのテーマを取り上げています。そして、僕等が生活のなかでHIV/

AIDSとうまく共生していくための「7つのHルール」を掲載しています。この冊子は、Gフレのようすけが担当となり、イメージPHOTを竹之内祐幸氏、デザインを松浦佳弘氏に担当していただき、制作しました。



カバンにつけても

その2 オリジナルコンドーム携帯ケース

小銭入れをコンドームの携帯ケースとして使うことが一部の若いゲイの間で流行しているらしい。ここを出発点に、親方(Gフレのメンバー、これはニックネーム)を中心にこのプロジェクトはスタートしました。腰に下げる、カバンに下げる、首から下げるなど、様々なパターンで利用できます。現在、商品化し、ゲイショップなどで販売ができないかどうか、新たなプロジェクトがスタートしようとしています。自信作です。



首に下げても

その3 VIDEO「ベーすけの部屋」

HIV陽性者と、HIVに感染していないカップルの人達に協力を依頼するところから、この企画は動きはじめました。LIVING TOGETHERを日々実践している彼らの生の声を聞くことができれば、即それがメッセージになるに違いないと。

当初は、大勢の方に集まっていただくことを予定していましたが、思うように出演者は集まりませんでした。そこで、二組のカップルにお願いして、司会が出会いから、告知、今にいたるまでの生活を、トークで語ってもらうという風に企画を変更しました。

二組の方々の出演の条件としては、音声を加工すること、顔が判らないようにすることでした。そこで、制作チームを編成し、司会には、ベーすけ氏、編集には冬彦氏、音声加工は春日亮二氏に協力を依頼し、構成は生島が担当しました。各インタビューの最後には、普段言えない言葉を手紙に託して朗読してもらいました。



「ベーすけの部屋」

秘密裏に、片方はHIV陽性者からパートナーに、もう片方はその逆に宛てての手紙の用意を依頼しました。スタッフの一人が、「ラブラブでうらやまし〜」を連発していました。人はウイルスより強いですね。

今年のVOICEにご協力いただいた皆様。本当にお疲れさまでした。皆様のおかげですばらしい「VOICE」が多くの人々に伝えられたと思います。ご協力どうもありがとうございました。

お知らせと報告

東京都シンポジウム報告

白坂 ゆき

12月12日の東京都エイズ予防月間シンポジウム「みんな知ってる?!性のこと エイズのこと」にぶ PEPが参加しました。

第一部では、東京都看護協会・JHC・ぷれいす東京がそれぞれピア教育の実践を報告しました。

JHC「大切な人はだれ」「気持ちをどう伝える?」大切な人は恋人とは限らない。コミュニケーションとセックス以外の愛情表現を来場者に考えてもらった。

看護協会「いやなときにはNOといおう」のロールプレイ「コンドーム豆知識」

各団体の特色が色濃く出る実践報告でしたが、我々ぶ PEPは、せっかくステージでやるのだからと、日頃、学校で実施しているプログラム群とは別に、この日の為にショーを準備しました。これらはぷれいす東京所属のドラッグユニット“まるんず”のネタをアレンジして、自分たちで考えたものです。

となりのコンドームショー

これは、観客が元々もっているコンドームのイメージをよりポジティブに捉え直すことを目的として作られたショーです。ぶ PEPのメンバーは酔っぱらいサラリーマンに扮して、挿入型コンドームをげる袋にしたり、レオタードを着て装着型コンドームポールで新体操の演技をしたり、他にもコンドームピキニ(乳首透けてる)や氷嚢にしたり、大暴れしてきました。コンドームはセックスの時も、セックスの時以外にも楽しく使える健康グッズです。あなたのとなりに、コンドームはありますか?

コンドーム装着ショー

挿入型(マイフェミィ)・装着型コンドームの正しい装着方法を、それぞれ5つのポイントでユーモラスに解説した後、音楽に合わせて装着実演をしました。肩の高さ大の巨大ちんこ“棒君”、クリスマスリースのような“七色まん子”が大活躍しました。



自分たちは、こんな暴れっぷりのいいショーに大満足していましたが、

カラーでお見せできないのが残念です

東京都のシンポジウムということもあり、観客は笑っているのか、よくないのか、ぶ PEPのショーに当惑したようにザワザワしていました。その一方で、高校生を中心にとっても反応がよく、第一部終了後に、ぶ PEPメンバーにわざわざ「おもしろかった」と感想を言いに来てくれた人もいました。

第二部のパネルディスカッションでは、司会に池上さんを迎えて、壇上に5人の“若者”が座り、活動を通して感じていること、困難なこと、教育関係者に言いたいことなどを自由に話しました。他団体で活動する若者の話には共感する部分も多かったことから、幅広い、多角的な活動を実現するためにこのように経験を共有できる機会がもっとあってもよいのではないかと思います。

そんな中、会場から「性を肯定的に捉えての性教育ではなく、“抑制教育”こそが重要」という意見が出され、壇上の若者との白熱した議論となりました。最近、このような意見に多く遭遇します。性を肯定的に捉えての私たちの活動は、セックスを奨励するものではなく、SEXUAL HEALTHを上手にケアすること、自己決定のために必要な情報のアクセシビリティを高めることを目的としたトレーニングの機会提供なのですが、しかし、これから、このような意見に対しどう対処していくか、どう説明していくか、私たち自身の課題が明確になった発言でもありました。

忙しいエイズ月間を新規メンバー含む15名で走りきる事が出来ました。少し時間ができるこれからのシーズンを、ぶ PEPスキルアップ期間と位置づけ、新たな活動展開と、更なる活躍へつなげたいと思います。

地域のエイズ連携協議会に協力

都内の医療圏のいくつかで、行政、医療、民間とが連携しつつ、HIVにどう向き合っていくのかを協議する場が設けられている。下記の二つの医療圏においては、ぷれいす東京は、会議の場への参加のみならず、積極的に協力を行っている。

2002年11月25日(月)

北多摩西部保健医療圏エイズ連携協議会 講演会

「セクシュアリティへの理解を深める

HIV陽性者との対話を通じて」

ぷれいす東京 専任相談員 生島嗣

JANP+スピーカー 二人

保健所で抗体検査を受けた経験、発症で入院し感染に気が付いた経験、家族との関係などについて個人的な経験についてスピーカーの二人が話してくださり、その後、自由な質疑応答があった。多様さを前提とした備えがサービス提供側にあることの重要性が強調された。

北多摩西部保健医療圏 =

東京都多摩立川保健所(立川市、昭島市、国分寺市、国立市)と、東京都村山大和保健所(東大和市、武蔵村山市)二つの保健所の管轄する区域

2003年2月5日(水)

区西南部保健医療圏エイズ連携協議会
症例懇話会

「医療施設における HIV 感染職員への対応」(東海大学)
「地域における HIV 陽性者支援と NPO の役割について」(ぷれいす東京)

区西南部保健医療圏 =

目黒区、渋谷区、世田谷区の保健所の管轄する区域

Tarzan の HIV 特集に協力



Tarzan12/11号

Tarzan (マガジンハウス刊)12/11号の HIV 特集に協力。

まろんずをガイド役に。Q&A コーナー、専門家による医学的知識、東京都の取り組み等を取材。また、インタビューコーナーでは、HIV 陽性の女性、ゲイのカップル、HIV 陽性者を雇用した経験をもつ企業の人事担当者、HIV 陽性者の息子をもつ母親のインタビューを掲載している。

編集後記

・ぎゅーっと詰め込んだこの号、もっと大きな画像でお見せしたいものばかり。それにつけても印刷屋さん、いつも無理な日程をお願いしてすみません...(サトー)

・東京都のエイズ対策係が頑張っている。検査環境整備においても、予算担当との交渉で攻防を繰り返している様子。みなさんで応援しましょう。(生島)

研修会のご案内

この度、ぷれいす東京が企画・実施する下記研修会が開かれます。若者の性の健康・保健行動に対する、知識やモラルの押し付けだけではない性教育アプローチについて、まじめに楽しく学んでみませんか?

JASE 授業のための実践セミナー

最新 Sexual Health 教育の実践的進め方
「性教育はむずかしい」と思っているすべての人に

日時 2003年2月1日(土) 10:30 ~ 16:30

場所 (財)日本性教育協会セミナールーム

東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B 1

参加費 3000円

定員 40名

主催 (財)日本性教育協会

企画・実施 特定非営利活動法人 ぷれいす東京
内容

第1部 キーワードはセクシャルヘルスと保健行動

保健行動科学の視点と日本の若者の保健行動分析

(徐淑子:新潟県立看護大学)

知識、モラル教育から保健行動研究による介入の時代へ

(池上千寿子:ぷれいす東京代表)

第2部 キーワードはセックスポジティブとユーモア

模擬授業/クイズとゲームによるグループワーク

/ロールプレイ/振り返りと気づき

(ぷ PEP:ぷれいす東京)

申し込み

参加を希望する方は下記宛先までお問い合わせください。

(財)日本性教育協会実践セミナー係

TEL: 03-6801-9307 FAX: 03-5800-0478

E-mail: info@jase.or.jp

編集・発行: ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304

TEL: 03-3361-8964 (月-金 12:00~19:00)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: ptokyo@gol.com

ぷれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://ptokyo.gender.ne.jp/>

web NEST: <http://www.jade.dti.ne.jp/nest/>

Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>